

[新装版]

吉田大洋

竜神よ、 我に來たれ



ヒカルランド

やおよろず

この国には、**八百万の神々の前に、竜神さまだけ**がいた!

渡来の神々に追われた【出雲神族=竜蛇族】から見た神社仏閣の超裏側——
スサノオとオオクニヌシに仕組まれた征服者の仕掛け罫をほどき、昨今の龍ブームの
根底に潜む「この国の根本の神さまは竜神さま」のさががけとなる名著、待望の復刻版!

はじめに——あなたの守護神はなにか

ある日の夜半、あなたがもうれつな心臓発作におそわれたとしましょう。心臓はドキドキと高鳴り、いまにも死にそうな感じですよ。あなたはそのとき、どうなさるのでしょうか——。たぶん、神仏へ手を合わせているに違いありません。

「神さま、どうか私の発作をやわらげてください。私を助けてください」と。

でも、その神さまは、いったいどういってお方なのでしょうか。この世の中、神さまは無数にいらっしやいます。ただ単に、突然「神さま！」と呼びかけられても、神さまのほうで困ってしまいます。

受験シーズンになると、学問の神さまは大繁昌はんじやうです。多い人になると、七カ所も八カ所もまわり、合格祈願の絵馬をささげ、お守りをいただいてきます。それで合格すればよいのですが、なかなかうまくいかないようです。神さまは浮気がきらいですし、日々これを祭っている、お祈りもききとどけてはくれません。

守護神を持っている人と、いない人とは、人生に大きな違いが出てきます。守護神は、あなたの悩みをときほぐし、病気を治し、出世さえもさせてくれます。古代日本神道に「運が悪

い」という言葉はありません。守護神を持ちさえすれば、道がおのずと開けてくるからです。それでは、どういう守護神を、どのようにお迎えすればよいのでしょうか。また、その神さまをどのように祭り、どのような供物くもつをささげ、どのようにお祈りすればよいのでしょうか。本書の目的は、それを探ることにあります。

結論から先に申ししましょう。あなたの、いや日本の、日本人の守護神は、竜神さまです。それ以外にはありません。あなたの身のまわりにある神社や仏閣を調べてみてください。ほとんどが竜神さまの系統です。ちよつと、神社名などをあげてみましょう。

〈竜神さまの系統の神社〉

出雲大社、三輪神社、氷川神社、天満宮、諏訪神社、熊野神社、塩釜神社、三島神社、河内神社、貴船神社、高竈たかおかみ神社、住吉神社、八幡宮、八坂神社（祇園社）、新羅神社、白山神社

〈竜神さまの化身とされる仏さま〉

不動明王、三宝荒神、弁才天、大黒天、恵比寿、金刀比羅ことひら大将、観世音菩薩、大日如来

まだまだありますが、このくらいにしておきましょう。

神功皇后じんぐうを守護したのは、住吉と八幡の竜神さまです。

後醍醐天皇が南朝をたてたときには、出雲、三輪、諏訪、天満宮の竜神さまが加護しました。けれども、明治になって国家神道が確立すると、宮中八神殿の守護神として祭られていた出雲の竜神さま（オオクニヌシとミホツ姫）は、放り出されてしまったのです。

それからは、日清戦争、日露戦争、第二次大戦が次々と起こり、日本は敗れました。竜神さまが、あまりにも極端へ走りすぎた体制派に、おキユウをすえられたのです。

敗戦の苦勞は、たしかにありました。でも、結果は「よかった」と言えるでしょう。

現在、日本は自由な民主主義のもとにあり、世界のトップ・クラスに数えられる大国へのし上がったのですから。

最近、末世思想が日本だけでなく、世界中に広まっています。

イラン・イラク戦争のほか、各地では内乱が続発しています。国内へ目を転じて、非行少年や通り魔、銀行強盗などが激増しています。「お先、まっくら」という感じですよ。

「お救いください。お願いします」誰しものが、こう叫びたくなります。

ところで、守護神となる竜神さまには、いろいろな方がいらっしやいます。

神道系、仏教系、新興宗教系ありで、その中でさらに細かく分かれています。でも、あなたを守護してくれる竜神さまはただ一つです。

不幸なことに、この方はいまままで埋没させられていました。

関係者と、そのすさまじいばかりの靈験を伝え聞いた人々が、秘かに、しかし熱烈に信奉していただけです。私たちはこの竜神さまを世に出し、お祭りしてこそ救われるのです。幸せにもなるのです。その御案内役を本書がつとめます。

昭和五十六年十一月

著者

「新装版」 竜神よ、我に来たれ—— 目次

はじめに——あなたの守護神はなにか 1

〈竜神さまの系統の神社〉 2

〈竜神さまの化身とされる仏さま〉 2

第一章 竜神を守護神に迎えよう！

——正しい祭り方を知って靈験を授かる

倒産の危機を免れる^{まぬか} 16

出雲の神々の系譜と素姓 17

〈オオモノヌシの命〓オオクニヌシの命の和魂^{にぎみたま}〉

〈コトシロヌシ〉 20

〈ヒナガ姫〉 21

〈サホ彦、サホ姫〉 21

大臣の椅子へまっしぐら 23

悪縁を切り、良縁を結ぶ 25

合格祈願も通じる 27

難病がケロリと治った 28

出雲神族系の竜神の靈験とご利益 33

出雲神族直系の富家と竜神 37

富家の「トミ」は「竜神」を表わす 39

ご利益を授かる竜神の社と祭壇と神饌 43

〈お社〉 43

〈祭壇〉 43

〈神饌と供え物〉 44

〈毎日の礼拝と特別な祈願〉 46

〈みそぎ〉 47

出雲神族系竜神のご神影しんえいは授与してもらえる 48



第二章 竜神の故郷は古代オリエント

——世界文明を発祥させた竜蛇族の秘密に迫る

竜神のイメージは爬虫類？ 魚類？ 52

竜神は恐怖心から生まれたのか 55

竜神は太陽神でもある 56

神在月に漂着する竜宮の使者 58

稲佐の浜での神迎え 60

竜蛇さんの素姓と故郷 62

神秘性と畏怖感をそなえた竜蛇さん 64

世界の文明を築いた竜蛇族とその悲劇 66

第三章 近代出雲の竜神は正統派ではなかった?!

——出雲大社の竜蛇神にご利益はあるか

サルタ彦は竜神か

72

日御碕神社の竜神は火防^{ひぶ}せの神

77

なぜ日御碕神社が竜神なのか

79

千家氏に竜神授与の資格はあるのか

80

ホヒ族の素姓を探る

84

封じ込められた竜神オオクニヌシ

86

千家氏は国造家の正系か

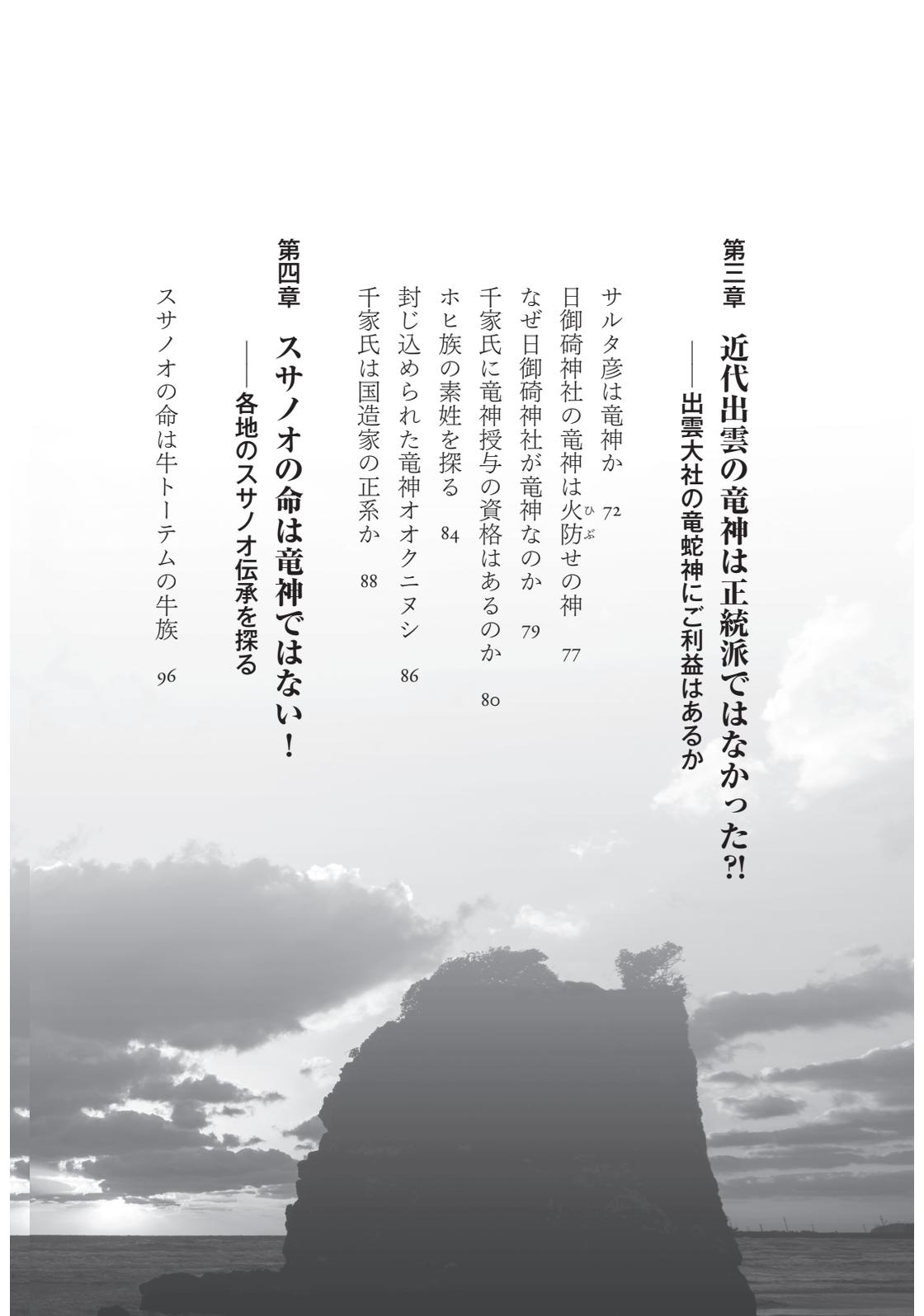
88

第四章 スサノオの命は竜神ではない!

——各地のスサノオ伝承を探る

スサノオの命は牛トーテムの牛族

96



熊野の大神はスサノオではない	98
竜神信仰の破棄を迫ったスサノオ	100
スサノオはなぜ竜神とされたのか	104
渡来人にも広まった竜神信仰	109
アジアの竜神を祭る竜神総宮社	111
シラヤマ姫は竜神か	114

第五章 仏教系に真の竜神は存在しない！

—— 八大竜王は釈尊を守護しなかった

念力で水が燃えるか	120
仏典に描かれた竜王 <small>ナガ</small>	123
仏典の竜王説話は後世の創作	126
サーキヤ族（釈迦族）は竜王の仇敵だった	128
釈尊はなぜ竜王と呼ばれたか	130
仏教によって変身した竜神	131

〈大日如来〉	131
〈観世音菩薩〉	133
〈大自在天 〓 摩醯首羅天王〉	135
〈俱利迦羅明王〉	136
〈金毘羅大将〉	137
〈大黒天〉	138
〈三宝荒神〉	140
〈弁才天〉	142
〈不動明王〉	144
出雲神族の裏信仰は弁才天と不動明王	147
海蔵寺の弁才天は蛇体そのもの	150
役の行者はなぜ不動明王を祭ったのか	152
西国一の祈禱寺・高雄山福円寺	156



第六章 日本の竜神の分派を探る

——インド系から中国・朝鮮系まで

- 原インド、東南アジア系の竜神 164
- 鹿児島にある媽祖神を祭る野間神社
隼人の楯の文様は謎ではない 173
- 中国・朝鮮系の竜神 176
- 天子のシンボルとなった中国の竜 180
- 中国・朝鮮系の竜神にご利益はあるか 184
- 古代オリエント系の竜神 187
- 記紀にあらわれた竜神 191
- 竜宮の乙姫として親しまれるトヨタマ姫 193
- 神功皇后が有名にした住吉竜神 195
- 土俗系の竜神——丑年、寅年の人の守護神は竜神 198
- 火祭りと関係が深い荒神神楽 201

第七章 埋没した竜神の復活にかける！

——氏神の乗っ取りと出雲神よみがえりの日

- 鹿島神タケミカツチの謎 208
- 悲運の竜女神・八幡の大神 211
- 高砂族の祖神と同じ伝承をもつ八幡神 213
- 消された出雲の神々 215
- 秘められた寒川神社の祭神は何か 217
- ナガスネ彦を祭神とする神社も 219
- 丹後一の宮の祭神も判明 222
- サイの神さんとして再登場したクナトの大神 224
- 竜神の性格が薄れていくタテミナカタ 226
- 神々の怒りが新興宗教を生む 230
- 新興宗教への弾圧とその変身 233



大本教は予告篇を演じただけか	235
〈神政竜神会の検挙概況〉	237
〈神政竜神会の組織概況〉	238
皇族も参拝した肝川竜神	240
小房を「おカン」と呼んだ王仁三郎	241
苦難の山開きと小房の人となり	244
肝川の祭神の素姓は	248
大本教への大弾圧始まる	251
広瀬宮司は王仁三郎の神さんを見た！	253
生長の家の竜神の正体は	255
埋没神（竜神）の復活はなるか	258



第一章

竜神を守護神に迎えよう！

——正しい祭り方を知って靈験を授かる

倒産の危機を免れる^{まぬか}

「もうかりまつか」

「いやア、あきまへん。出るのはため息ばかりです」

ここ数年、京都西陣は危機の連続でした。不景気に見舞われ、また着物を着る人が少なくなつたために、織り元は縮小につぐ縮小をしいられました。倒産したところもあります。そんな中で、老舗^{しにせ}のE店だけが、着実に伸びていきました。

その秘密は何だったのでしょうか。専務のFさんにかがうと、顔をほころばせながら、こう言われました。

「困ったときには、竜神さんにおすがりすればいい。どんなお願いでも叶^{かな}えてくださる、と聞きましてな。無理いうて、竜神さんの御霊^{みたま}を授けてもらうんですわ。ご利益ですか。それはもう、大変なものだす」

E店も経営が苦しかったようです。ところが、竜神さまをお祭りした翌日に一口、翌々日に三口、そして一週間後には、前にも増して注文が舞い込んだのです。いまは毎日、社員ともども礼拝している、と聞きました。

昔から、「蛇のぬけ殻を財布の中に入れておけば、金持ちになれる」と、言われています。インドにも同様な伝承があり、「竜神は海中や地中にうもれた宝を守り、これを人間に分け与える」と伝えていきます。

竜神さまは、商売繁昌や金運と縁が深いようです。ところで、E店が授けられた竜神さまは、いったいどういう系統のお方だったのでしょうか。これこそ、埋没させられた竜神さま——、はつきり申せば、出雲神族系の竜神さまです。(註)

(註) 出雲の竜神信仰は、スサノオの命や天孫族に圧迫され続け、ついに陰かげのものとなってしまった。竜神さまをお祭りしていることさえ、ほかの人には言わないことになっている。登場人物をアルファベットで表わしているのも、そのためである。

出雲の神々の系譜と素姓

出雲の神さまといえは、すぐオオクニヌシの命を思い起こされることでしょう。このお方は一般にスサノオの命の御子、あるいは六世の孫とされています。くわしくは後で述べますが、スサノオはオオクニヌシの親でも祖神でもありません。それどころか、朝鮮から出雲国へ攻め

〈出雲神族の略系譜〉

熊野の大神（クナトの大神）ヤチマタノ神 || 幸神 || 道祖神。さえのかみ 熊野大社祭神）

熊野のクシミケヌの大神 オオクニヌシの命（出雲大社、氷川神社祭神）

アジスキタカヒコネの命（高鴨神社祭神）

シタテル姫（伊和神社祭神）

コトシロヌシの命（三島神社、河内神社祭神）

タテミナカタトミの命（諏訪神社祭神）

ワカフツヌシの命（出雲の剣の神）

ミホツ姫（美保神社祭神）

天のヒカタクシヒカタの命

ヒメタタライズズ姫（神武帝后）

イズズヨリ姫（綏靖帝后）

トミのナガスネ彦（塩釜神社祭神）

イセツ彦（伊勢国主） イサワトミの命（伊雑宮祭主）

サホ彦、サホ姫（垂仁帝后）

トミの宿禰すくね（野見宿禰） 菅原道真みちざね（天満宮祭神）

富村雄（熊野大社大官司家の次男。熊野意宇磨）— 饒若— 現当主・富當雄

込み、出雲人の竜神信仰を禁止したのです。

ところで、『古事記』や『日本書紀』などは、出雲の神々をどのように描いているのでしょうか。ちょっと、のぞいて見ることにいたしましょう。

〈オオモノヌシの命〓オオクニヌシの命の和魂〉にぎみたま

ヤマトトトソモソ姫が、オオモノヌシの妻となった。しかし、その神はいつも昼ではなく、夜にやってくるのである。姫は夫にこう言った。

「あなたは昼にいらっしやらないので、そのお顔をはっきり見ることができません。どうか明日の朝までおとどまりになり、美しいお姿を見せてください」

大神は答えた。

「よくわかった。私は明朝、あなたの櫛箱くしばこに入っていよう。しかし、私の姿かたちを見て驚かないでもらいたい」

姫が夜の明けるのを待って櫛箱を開けると、中には美しい小蛇が入っていた。姫は驚きのあまり、叫び声をあげた。すると、神は恥じて人の姿となり、大空を飛んで三輪山にのぼってしまった。姫は悲しみくやんで、箸はしで陰部ほとを突いて死んだ。姫を葬った墓を〓箸墓はしむらと呼ぶのはそのためである。(註1)



オオモノヌシの命がしずまる三輪山

雄略天皇はちいさべのむらじ小子部連スガルを呼んで、
こう命じた。

「三諸山みもろ（三輪山）の神（オオモノヌシ）
がどういふ姿をしているのか、ぜひ見たい
ものだ。お前は人より優れた力を持っている
のだから、山へのぼって捕えてこい」

スガルは「なんとか捕えてまいりましょ
う」と答え、三諸山にのぼり、大蛇を捕え
て天皇に差し出した。その大蛇は雷鳴を発
し、目をランランと輝やかせていた。天皇
は恐れおののいて目をおおい、宮殿の中に
隠れてしまった。（註2）

〈コトシロヌシ〉

（オオクニヌシの子）コトシロヌシは、ヤ

ヒロクマワニとなつて、三嶋のミゾクイ姫、またの名をタマクシ姫という女人のところへ通つた。

そして、ヒメタタライスズ姫を生み、カムヤマトイワレ彦（神武天皇）の后きさきとした。
（註3）

〈ヒナガ姫〉

口の不自由なホムチワケ王は、出雲へ行つて大神を拝むと、ものが言えるようになった。そのとき、一夜をヒナガ姫と過ごしたのだが、ひそかにのぞくと、美しい姫は蛇であつた。

（註4）

〈サホ彦、サホ姫〉

サホ彦は謀反むほんをくわだて、妹であり、垂仁天皇の皇后であるサホ姫ひもかたなにヒ首ひもかたなを授け、「天皇がねむっているときに、首を刺して殺せ」と命じた。

垂仁天皇の五年冬十月、ついに機会がめぐつてきた。天皇が来目くめに行幸して高宮にいるとき、皇后のひざ枕で昼寝をしてしまったのである。

皇后は、いくどもヒ首をふりあげた。しかし、哀情がおこつて、どうしても兄の命令を

遂行することができない。あれこれ思い迷ううちに、思わず涙があふれて、それが天皇の顔に落ちた。天皇は驚いて起きあがり、皇后にたずねた。

「私はいま夢を見た。錦色をした小さな蛇が、私の首にまきついていてるのだ。また、大雨がふってきて、私の顔をぬらした。これは何を意味するのだろうか」

皇后は自分のしようにしたことをかくせず、兄の謀反を告白し、天皇の見た夢の夢ときをした。

「錦色の小さな蛇は、兄が私に授けた匕首です。大雨は私の涙です」（註5）

出雲の神々は、蛇神＝竜神だったのです。諏訪神社の御神渡りの神事では、氷がさけるのを「竜が走る」と言いますから、タテミナカタトミの命も竜神さまです。御神渡りの神事も、本来は「御巳（蛇）渡り」だったと思われれます。

トミのナガスネ彦の「ナガ」が竜神さまを表わすことは、いまや常識となっていますし、天神さまこと菅原道真は、雷神、竜神として崇りました。そして、これらの竜神さまの頂点に立つのが熊野の大神さまです。

E店が授かった竜神さまは、金運、商売繁昌をもたらしました。右の系譜のうち、オオクニヌシは七福神の一人である大黒さま、コトシロヌシは恵比寿さまに当てられます。E店の商売

運が上昇の一途をたどったのも、不思議なことではありません。

(註1) 『日本書紀』崇神天皇十年九月の条。

(註2) 『日本書紀』雄略天皇七年七月の条。

(註3) 『日本書紀』神代卷上第八段。

(註4) 『古事記』垂仁天皇・本牟智和氣王ほむちわけの条。

(註5) 『日本書紀』垂仁天皇四年九月、五年十月の条。『古事記』垂仁天皇・沙本毘古王の反逆の条。

大臣の椅子へまっしぐら

出雲神族系の竜神さまは、これまで公おおやけにされたことはありません。くわしくは後で述べますが、上古以来の弾圧がそうさせたのです。けれども、出雲の竜神さまの靈験は口から口へと伝わり、授与を希望される方が年々ふえているようです。

「当然でしょうね。私などは、初出馬、二回目と連続して落選。もう政治家にはなれんのかないか、と悲観していました。そんなとき、後援者のお一人が出雲の竜神さまをお迎えしてきて、選挙事務所にお祭りしたのです。驚きましたね、それ以来、選挙資金はスムーズに入って

くるし、立候補するとならず当選です。

選挙と資金に心配がなくなれば、政務にも党務にも集中できます。そんなわけで、数期後には幹部にとりたてられ、やがて大臣のポストも与えられました。まったく、向こうからこころがりこんできた、という感じでした」

こう述懐されるのは、自由民主党のTさんです。

政治家の方々は、一般に信心深いようです。上古の戦いは、人と人ではなく、その種族が奉ずる神と神との戦いでした。神の加護がなければ、絶対に勝利はないのです。それをご存知なのかもしれません。

でも、気にかかることがあります。埼玉県の高麗こま神社が「政治家にご利益をたれたもう」と聞くやそこへ参拝し、また祭壇にアマテラス大神とオオクニヌシの命をいっしょに祭ったりしています。

高麗神社の祭神は高麗こうらいの若光王です。『日本書紀』によれば、宮中に出雲の大神とアマテラス大神を祭ったところ、流行病が広がるなど、よくないことばかり起こったそうです。(註)
そこでアマテラスは宮中から出され、放浪の後、伊勢の地に落ち着かれるわけですが、系統の違う神さまを合わせてお祭りすると、こうしたことが起こります。

（註）『日本書紀』崇神天皇六年の条。「天照大神、倭^{やまと}大国魂、二の神を云々」とある。大国魂神は出雲の大神のことで、『大倭神社注進状』に「大国魂神は大己貴神^{おおなむち}（大国主神）の荒魂^{あらみたま}と伝え聞く」と書かれている。

悪縁を切り、良縁を結ぶ

オオクニヌシが縁結びの神として知られるように、出雲の竜神さまは悪縁を断ち、良縁を結んでくれます。

昨年の秋のことです。滋賀県大津市のB家では、陰うつな日々を送っていました。二十三歳になるお嬢さんに、とかく噂のある男性がまつわりついて、離れようとしなないのです。

連日、夜になると電話をかけてきては、交際をせまるのです。

「娘にも、落度があったことはあったのです。去年の夏、舞子へ泳ぎに行ったとき、お茶にさそわれて、気軽につき合ったのが、そもそもの始まりなんです」

と、お父さん。

「娘は、あなたに対して、特別な感情は何も持っていないのだから」

どう断わっても相手は納得してくれません。電話番号を変えるなどの対策もこうじました。

すると、今度はお嬢さんが会社から帰宅するのを待ち伏せたりするのです。暴力をふるうこともないので、警察に頼むわけにもいきません。

お嬢さんだけでなく、一家の人たちはみんなノイローゼ気味になってしまいました。そんなとき、「竜神さんに頼めば、簡単に切れる」という話を耳にしたのです。

母親は娘を連れて、その竜神さまをお祭りしているという、高槻のH家を訪れました。当主のHさんは、相手の男性の姓名と年齢を聞き、それをお札のようなものを書いて、コヨリで結び、竜神さまのお社のうしろに置きました。

「さあ、私といっしょに、悪縁が切れて良縁がくるようにお祈りください」

——不思議なことに、その日から彼は姿を現わさなくなったのです。しかも、八日後には父親の上司から、望むべくもないようなお見合いの話がもちこまれたのでした。

「写真を手にとった娘の顔を見たとき、これはまとまる、と直感しました」

そして、そのとおりになったのです。この五月に挙式、いまお嬢さんは妊娠四ヵ月とかで、ご両親は初孫の生まれるのを首を長くして待つておられます。

「Hさんのところへお礼にうかがったら、本当は相手の正確な生年月日、それに相手の髪の毛とか持ち物があつたほうがよいのだが、と言われました。とにかく、悪縁が切れただけでなく、良縁までが舞い込んだのですから、いくら感謝しても感謝しきれません」

と、ご両親は喜ばれています。

合格祈願も通じる

H家の竜神さまは、口コミでかなり知られているようです。新年に入ると、受験生やそのご両親が連日のように訪れるとか。しかし、Hさんは簡単に引き受けたりはしません。

まず、「ほかの神社やお寺へ行ったのか、お守りなどはもらってきたのか」などを、かならず質問します。もし、ほかの神社に参拝していれば、

「その神さんに頼みなさい」と、断わってしまいます。

「信心というものは、そうしたものでしょう。たくさんのお神さんにお願いすれば、どなたかが助けてくださる、などと思うのは間違いです。ただ一つの神さんを心から信じ、祈願してこそ、神さまのほうでも耳を傾けてくださるのです」

Hさんは、合格祈願に来た人たちが、竜神さまへの信仰を誓うと、奉書に祈願文（志望校、受験日、姓名、生年月日、性別など）を筆で書かせ、ようやく竜神さまへの祈願を許します。

「竜神さまはどんなムリでも聞いてくださる。その反面、非常に厳しいのです。曲がったこと

は大嫌いですし、いいかげんな気持ちで拝んでもダメなんです。

合格率ですか？ 私がお引き受けした人は、二、三を除いて全員が合格しています。例外は、やはり信仰心のなさによるものでしょう」

H家の竜神さまが、出雲神族系のものであることはいうまでもありません。

難病がケロリと治った

出雲神族系の神々のもっとも大きな靈験は、オオクニヌシの命が医療の神さまとされているように、病氣治癒にあります。

後で述べますが、幕末から明治にかけて続々と生まれた出雲系の新興宗教（特に大本教）では、「病気を治せない者は、教師の資格がない」と言われたほどです。

出雲大社の注連縄はマコモで作られます。オオクニヌシとイナバの白兔の伝説が示すように、マコモには諸病を治す偉大な力があるからです。『和漢薬書』には、次のような効果があげられています。

根は無毒で、胃腸病、のどのかわき、胸やけ、やけどの傷、毒へびにかまれたとき、二日酔い、などに。実は「菰米」と呼ばれ、のどのかわき、解熱、調胃腸の作用があつて、茎は、齒

を養い、かわきを止めるが、わずかに毒があるようだ、となっていています。

近年、マコモに関する研究が進み、数冊の本も出版されました。その中の一つ、横田清編著『真孤健康法』(東西社)から、マコモの効果に関する医師たちの談話だけを書き抜いてみましょう。

コーケン(マコモを特殊な方法で粉末にしたもの)の効果に着目して、このほど研究をはじめた国立弘前病院名誉院長の中村豊弥医博はこう語っています。

「今年の七月初めに研究に着手したばかりで、いちおう結論が出るには、数年を要するでしょう。したがって、私の立場としては、なにが体に効くと、はっきりしたことはなにも申しあげられません。

ただ想像の域のことではいいますと、血液の循環にかなり深い関係があることは確かでしょう。また宝子菌(マコモに含まれている微生物)といっても、いくつもの菌がまじっていて、どれがどうとも専門外の私にはわかりませんが、人間の体液にあって初めて活性を示すということがあります。また、これが体質をかえるであろうということはいえます。

仙台では、乳ガンの肺転移で、大学病院がさじを投げた女性が、コーケンを飲んで、転

移したガンが消えた例があります。原発のガンは消えませんでしたけれども」

コーケンを患者の了解のもとに治療にとり入れている埼玉県・南入間診療所の大脇院長は、こう語っている。

「リウマチ、糖尿病、神経痛など痛みをとまなう病気をはじめ、低血圧、高血圧、脳軟化症、腎臓、肝臓、心臓病などを扱いましたが、本人に治す気があって、コーケンを試す人なら、ほとんど治せる自信があります」

ちなみに、同診療所では、コーケン療法による一〇〇人近い入院患者を扱い、治癒の確率は、実に八〇パーセント以上という驚異的数字を出している。

広島市の土本重博士（内科）も、患者の治療にコーケンを応用している一人だ。

「三年前、あらゆる治療を試みてダメだった進行性筋萎縮症の患者に使ったのが初めてですが、あんまり効くので驚いたね。コーケンの湿布をしてから数日で効き目がでてきたんですからね。」

医学は進歩したといっても、リウマチやゼンソクといった病気には、いまだに無力なんです。これがコーケンで治せるとなれば、患者にとっては一大朗報ですよ」

さて、奈良市のAさんは、四十六歳の冬に、突然、胸の痛みにおそわれました。呼吸が苦しく、ひどい疲労感もあるのです。

病院へ行くと「冠不全」という診断が下されました。血圧も一〇〇を切れています。投薬を受けて多少はよくなりましたが、(いつ倒れるかわからない)という不安もあって、会社の仕事も満足にできません。

特に冬場は調子が悪く、ときどき発作にも見舞われます。風邪をひいてセキこんだりすると、身動きさえできなくなってしまうのです。

「これでダメなんじゃないか、終わりじゃないか、と、幾度も思いました。発作が起きると、ただただ神さまへ手を合わせていました。ものすごく苦しいときは、無心になって神さまとあい対することができなのです。でも、私は、その神さまがどういう神さまであるのか知りませんでした」

そんなある日、知人から出雲の竜神さまの靈験を聞き、これを祭ることにしたのです。

「あなたは苦しいとき、無心になって神さんに対することができると言われた。その苦しみは、禊みそぎの一種です。竜神さまはお見通しです。心が清められたあなたは、かならず救われます。それから、マコモを太陽のもとでよく乾かし、小さくきざみ、せんじてお飲みなさい。お風

呂に入れても効き目があります」

こう言われたAさんは、朝晩、身を清めては竜神さまの前へ座り、マコモのせんじ薬を飲み続けました。一カ月後ぐらいに軽い発作が起りましたが、それ以降はピタリと止まって出ません。

(竜神さまが治してください)

そう思うと、ますます元気になり、会社勤めも苦にならなくなりました。

「不安のなくなったのが、一番大きいと思います。自分のからだのことは竜神さまにおまかせした。そう心に決めてしまうと、身心ともに軽やかになっていったのです」

Aさんの回復ぶりには、奥さまも目をみはりました。月に二、三日は欠勤していたのに、残業さえするようになったのですから――。

三カ月後、Aさんは病院の門を叩きました。今度は、医師のほうがびっくりしました。血圧は正常の一三〇を示し、冠不全の症状もきれいに消えていたのです。

マコモ健康法は、出雲神族の秘伝ともいえるべきものです。これに竜神さまの靈験が加わったのですから、Aさんが全快したのに何の不思議もありません。